

豊田市長 太田 稔彦 様

若林地域会議 提言書



令和8年2月27日

1. 若林地域会議委員【18名】

会 長 都築 和彦

副会長 伊藤 篤勇

委 員	芦澤 正博	板谷 香代	猪塚 健人	伊藤 教彦
	江口 成子	上口 正寛	柴田 勝久	鈴木 光久
	都築 淳	都築 聖世	中村 公人	野田 清芽
	原田 好則	平澤 安志	村瀬 典範	矢野 恵美

2. 提言に向けたこれまでの歩み

令和2年3月に策定された「若林まちづくりビジョン」（以下、「ビジョン」という）に基づき、地域課題解決事業の具体的な事業計画を策定するため、若林地域会議で検討を進めてきた。

ビジョンで示された将来像を実現するための「具体的な取組」を抽出するとともに、その「実施主体（地域・共働・行政）」を定めるグループワークを実施した。この結果、全ての班において「防犯マップの作成」および「あいさつ標語コンクールの開催」の2項目が、「共働」による実施が必要であるとの結論に至り、地域全体としての合意形成が図られた。



はじめに

本提言は、「若林まちづくりビジョン」に掲げる将来像の実現を目指し、地域と行政が共働で取り組むべき具体的な施策を提案するものです。地域特性を踏まえ、特に「防犯の充実」と「あいさつでつながりを深める地域づくり」に焦点を当てた提言を行います。

1 若林地域の特徴

若林地域は若林自治区、高美町自治区、外根自治区、若林宿舍自治区の4つの自治区から構成されています。若林自治区は豊田市内において規模の大きい自治区の一つであり、コミュニティ活動や地域会議は同自治区を中心に行われます。高美町自治区は昭和45年に発足し、高美町桜並木は豊田市南部における最良の景勝地として知られています。外根自治区は昭和43年に建てられた愛知県営住宅の自治体を母体としており、昭和47年に若林自治区から分離独立を経て自治区となりました。旧雇用促進住宅（2017年（平成29年）より民間アパート）の若林宿舍自治区は、昭和41年に自治区として発足されました。

地域内を名鉄三河線が縦断しています。名鉄三河線は猿投駅から名鉄名古屋本線までを結ぶ路線です。地域内にある若林駅は名古屋へ約40分、豊田市駅へ15分で移動できる環境です。

また、高岡地域バス「ふれあいバス」が若林交流館へ乗入れており、みよし市への移動もできます。

継続事業として名鉄三河線連続立体交差事業（若林駅付近高架化）や、それに連動した（仮称）豊田若林駅周辺土地区画整理事業が、「えきちか居住誘導エリア」での居住誘導と都市機能の充実を図る実践計画事業として推進されています。

2 若林地域の将来像（目指す姿）

若林地域は、令和2年3月に発行した「若林まちづくりビジョン」にて、将来像（目指す姿）を「暮らし続けたいまち・わかばやし」としている。その将来像（目指す姿）を実現するために3つのポイントを定めている。

【ポイント①】安心して暮らせるまち！

・安全・安心なまちづくり ・支え合うまちづくり

【ポイント②】元気に暮らせるまち！

・活気あふれるまちづくり ・子ども、高齢者、障がい者に優しいまちづくり

【ポイント③】みんなが暮らしたくなるまち！

・魅力的なまちづくり ・世代を超えて仲良く暮らすまちづくり

3 提言

第9次豊田市総合計画においては、「こども」の視点が新たに重視され、将来のまちを支える世代が安心して成長し、地域とのつながりを実感できる環境づくりが重要と考えています。そこで、こどもたちが自らの生活圏の安全性について考え、地域の人々と顔の見える関係を育む取組を充実させることが必要であると考え、以下の2事業を提案するものです。

提言① 防犯の充実（【ポイント1】安心して暮らせるまち！）

▶課題：犯罪に対して不安を感じている住民が多い。

▶対応：地域内の危険箇所を確認し、こどもが安心して生活できる環境にする。

▶対象：若林地域の小学生、中学生、高校生

▶取組内容：高岡中学校区の防犯マップの作成

▶最終到達目標：地域住民が防犯意識を高く持ち、「自分ごと」として防犯に関わる文化が根づいている。

提言② あいさつでつながりを深める地域づくり（【ポイント3】みんなが暮らしたくなるまち！）

▶課題：「あいさつ」は住民同士のコミュニケーションを深めるとともに、防犯、防災、福祉など、共助につながるが、あいさつをする人が少なくなっている。

▶対応：あいさつ運動の促進

▶対象：園児、小学生、中学生、高校生、一般、シニアで部門分け

▶取組内容：若林地域あいさつ標語コンクールの開催


▶最終到達目標：世代を超えたコミュニケーションが常態化し、非常時に機能するセーフティネットが構築される。

4 さいごに

本提言は若林地域が抱える「防犯」と「コミュニティ」の課題に対し、若林地域会議で議論したもので、「暮らし続けたいまち・わかばやし」を具体的な行動で実現するものです。特に「防犯マップの作成」は安全・安心なまちづくりに寄与し、「あいさつ標語コンクールの開催」は世代を超えて仲良く暮らすまちづくりに寄与すると考えます。

これからも、地域・行政との共働による地域づくりを進めてまいります。本提言を基に、若林地域が今より「暮らし続けたいまち・わかばやし」になることを期待します。

防犯マップ企画書（若林地域課題解決事業）

目標	地域の小中高生が安心して生活できるようにすること。
実施体制	主体：共働{行政（高岡支所）、地域} 協力：警察、学校
対象	若林地域居住の小中学生、中学生、高校生
掲載内容	対象地域：高岡中学校区 地図形式：A0サイズ 掲載箇所 【危険】 ・ひったくり ・痴漢 ・空き巣（過去事例） ・自転車盗（過去事例） 【安全】 ・防犯カメラの設置場所 ・こども110番の家 ・「緊急メールとよた」「あいちポリス」の二次元コード ※文言は対策を明示。 「暗い道路なため、こんな対策があると良い」
更新方針	更新頻度：2年に1度 更新基準：地域会議で意見について協議後随時 意見集約：意見集約のフォームを作成し、マップに二次元コードを掲載
利用方法	・公共施設（学校、自治区等）、スーパー等の商業施設への掲示 →学校で危険箇所に対してどのような行動をするべきか議論してもらえよう提案 ※個人宅への配布はしない。
参考	 梅坪台防犯マップ

あいさつ標語コンクール企画書（若林地域課題解決事業）

目標	気軽に当たり前のように「あいさつ」できる住民を増やす。
実施体制	主体：共働[行政（高岡支所）、地域、学校、こども園] 協力：教育委員会
対象	園児、小学生、中学生、高校生、一般、シニアで部門分け
背景と課題	近年、地域住民同士の交流が希薄になりつつある。あいさつにより、地域のつながりを深めることが必要。
事業概要	事業名：（仮称）若林地域あいさつ標語コンクール 事業内容：あいさつをテーマにした標語を募集。 こども園、小学校、中学校、高校生、一般、シニアで部門分け。
募集方法	自治区回覧を使って広く知ってもらう。
審査	審査方法及び審査基準は地域会議委員に一任
活用方法	○地域の正式なあいさつ言葉として広報 <ul style="list-style-type: none"> ・自治区回覧 ・学校回覧 ・公共施設へポスターの掲示 ・のぼり旗を作成し、交流館に飾る ・各会議体に協力してもらい、会議を始める前に読み上げる ・スーパーや飲食店への掲示 ○地域の大人がこどもに対して、標語をつかって挨拶をする <ul style="list-style-type: none"> ・自治区が通学するこどもに対して挨拶する ・見守り隊が通学するこどもに対して挨拶する